

SPSS Ver.29 コミュータライセンス手順【MacOS 版】

このマニュアルでは Mac OS 版の SPSS Ver.29 でのコンピュータライセンスの手順を記述します。

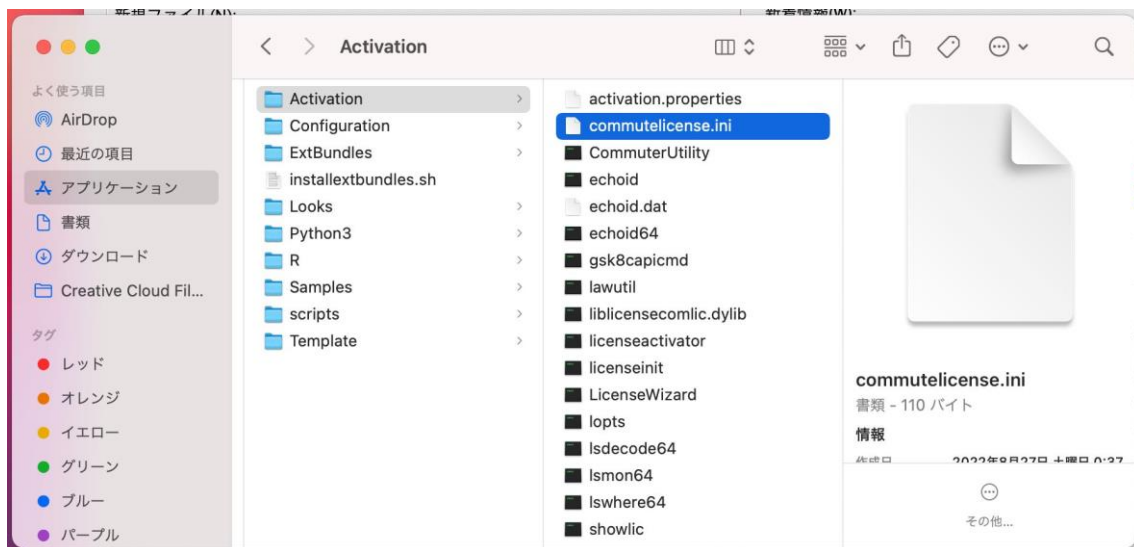
他のマニュアルからこのマニュアルの一部を参照する事もあります。

1. 学外利用の最大可能日数の変更
2. 学外利用手続き
3. 学外利用の解除

1. 学外利用の最大可能日数の変更

※学外利用時の最大可能日数は初期設定が7日ですので、30日に変更しておく手順です。

※必ず PC が学内ネットワーク(Scientia)に接続された状態で行ってください。



a)アプリケーションの「IBM SPSS Statistics」→「Resources」→「Activation」フォルダにある『commuticense.ini』を右クリックし、テキストエディットで開きます。

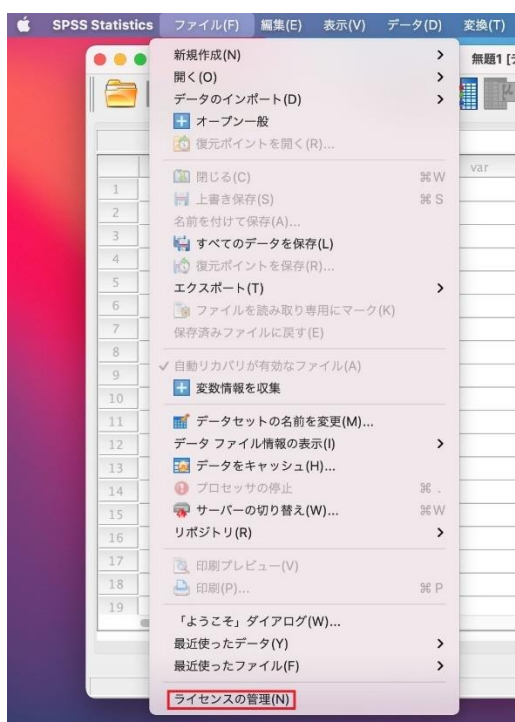
b) 「CommuterMaxLife」の値を「7 から 30 に書き換えて上書き保存」します。

- ・ 最大可能日数の変更は一度行くと 30 日で保持されます。
- ・ 30 日を超える設定は無効です。
- ・ commutelicense.ini の他の設定は変更しないでください。

2. 学外利用手続き

※必ず PC が学内ネットワーク(Scientia)に接続された状態で行ってください。

a) 「IBM SPSS Sytatics」を起動します。



b) SPSS の「ファイル」→「ライセンス管理」を選択し「Commuter ユーティリティツールの起動」をクリックします。

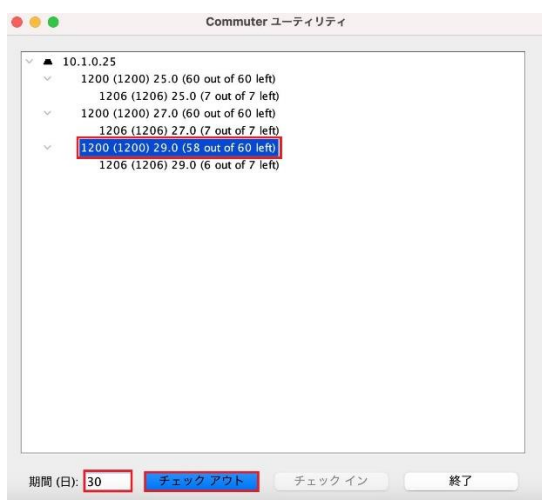


c) 「IBM SPSS Statistics 1200 29.0」モジュールを選択して（学外利用）期間（1～30日）を入力後「チェックアウト」を選択します。期間の初期値は3日で利用期間に応じ最大30日まで変更が可能です。

ご自身の使用したい期日に変更してください。

学外利用が可能になると赤いチェックマークが付くので「終了」を選択します。

学外利用台数が上限に達するとエラーコード 77 になり学外利用手続きはできません。



d) IBM SPSS Statistics の再起動で「再起動」を選択することで学外利用が適用されます。

3. 学外利用の解除

学外利用期間内に利用が終了した場合は、PC を学内ネットワーク (Scientia) に接続し、「チェックイン」を行うことで学外利用が解除されます。

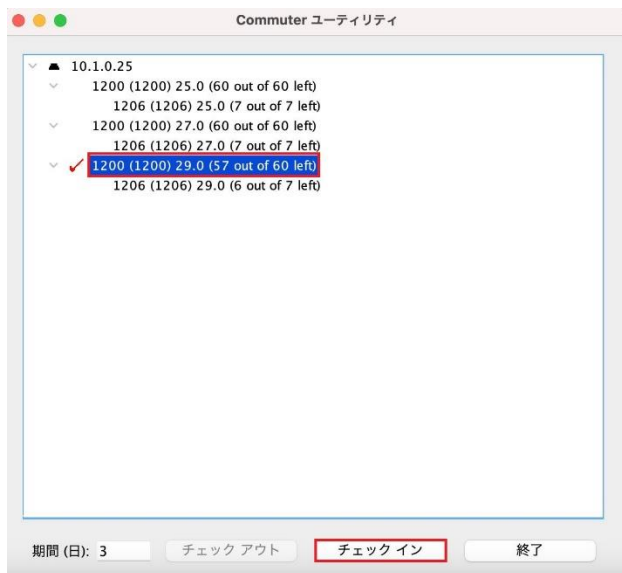
学外利用期間が過ぎた場合は自動的に解除されるため操作は不要です。

※ 必ず PC が学内ネットワーク (Scientia) に接続された状態で行ってください。

a) 「IBM SPSS Statistics 」を起動します。

2.SPSS の「ファイル」→「ライセンス管理」を選択し「Commuter ユーティリティツールの起動」をクリックします。

b) 「IBM SPSS Statistics 1200 29.0」を選択後「チェックイン」を選択し、赤いチェックマークが消えたのを確認し「終了」を選択します。



c) IBM SPSS Statistics の再起動で「再起動」を選択することで学外利用が解除されます。

以上です。